

令和2年度(2020年度)

取組の重点

第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン

子どもたちの**基本的な生活習慣の定着**を図り、**3つの視点**において、次の内容を**重点**として「学ぶ力」向上の取組を進めます。



視点3

子どものために一丸となって取り組む **学校づくり**

OJTを活用した学校全体で**組織的・継続的に**
実践する取組の推進

POINT

- 課題を焦点化して明確にし、職員全体の共通理解を図る。
- 推進する組織を確立し、取組の内容や手立てを具体化する。
- 取組について、定期的に検証・改善する手立てを具体化する。
- OJTを活用して継続的に研修を実施する。
 - ・ OJT推進リーダーやグループリーダーを中心とした体制づくり
 - ・ メンター方式*を取り入れた研修の実施 等

*メンター方式とは、知識や経験の豊かな先輩教員(メンター)が、若手教員(メンティー)との継続的な対話や助言を通して、仕事における不安や悩みの解消を図りながら、自発的な成長を支援すること。

視点1

学びを実感できる
授業づくり

- 子ども一人ひとりの学びの状況に応じた**基礎的・基本的な知識・技能の指導の充実**
- ◇ 「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる「読み解く力」の視点を踏まえた**授業づくりの充実**

POINT

- 資質・能力の育成に向けた「教科等の指導力点」を意識する。

視点2

学ぶ意欲を引き出す
学習集団づくり

生徒指導の3機能を生かした
授業づくりの推進

POINT

- <生徒指導の3機能>
- 自己存在感を高める。
 - 自己決定の場をつくる。
 - 共感的人間関係を育成する。

※ 裏表紙参照

視点2 生徒指導の3機能を生かした授業づくりの推進

子どもたちのよさを積極的に評価する教師の姿勢が、児童生徒の自己存在感や自己有用感を高め、失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦しようとする意欲の醸成へとつながります。

自己存在感を高める

- ・教材や発問の工夫により、全ての子どもたちが考えたことを発言できる機会を設定する。
- ・机間指導で励ましたり、がんばりを認めたり、よさを褒めたりする。
- ・類似した発表内容でも、共感的に受け止め評価する。 ・誤答でも、発表したことを評価する。

自己決定の場をつくる

- ・調べ方等を自分で考える時間を設定する。 ・子ども一人ひとりに学習目標を立てる場を設定する。
- ・じっくりと課題に向き合い、自分の考えを形成できるように支援する。
- ・自分の考えをまとめて、発表する場を設定する。

共感的人間関係を育成する

- ・発表者を見て、意見を聴くように促す。 ・多様な意見を認め合う雰囲気づくりをする。
- ・自分とは違う意見等について、相手の立場に立って理解するよう促す。
- ・子どものささやきやつぶやきに着目しながら、子どもたちが互いの立場や考えを尊重し、違いを認め合えるようにする。

学校園等と家庭・地域が一体となった取組の推進

「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」により、学校園等と家庭・地域が、その目的や取組等を共有しながら一体となって「学ぶ力」向上に向けて取り組むことが大切です。



【学校園等】

- ・学校園等で取り組んでいる内容を、家庭・地域に積極的に発信しましょう。
- ・子どもたちが、基本的な生活習慣や、家庭等で主体的に学習する習慣を身に付けるため、家庭・地域と連携した取組を行きましょう。

【家庭・地域】

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的な生活習慣および家庭における読書・学習・運動の習慣が定着するように取り組みましょう。
- ・学校園等の「学ぶ力」向上の取組内容等について理解し、教育活動に協力しましょう。

中学校・義務教育学校の校区を単位とした取組の推進

中学校・義務教育学校の校区を単位として、幼稚園・保育所・認定こども園等、小中学校等の教員との合同研修会を実施し、幼小・小中の連携・接続の取組を推進しましょう。

平成28年度～令和元年度
「学ぶ力」向上につながる
実践事例集



幼小接続に向けた指導資料
学びをつなぐ
幼小接続ハンドブック



視点1 教科等の指導力点

各教科等の資質・能力の育成に向けた

- : 基礎的・基本的な知識・技能の指導の充実
- ◇: 「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりの充実

幼稚園等、小学校・義務教育学校(前期課程)

幼稚園等

- 幼児が主体的に環境と関わって十分に活動し、充実感や満足感を味わえるよう、教材を工夫し、人的・物的・空間的環境構成の充実を図っているか。
- ◇ 発達に合った言葉のやりとりや、絵本の読み聞かせ等、日々の保育の中で話を聞くことや、相手がわかるように自分の言葉で話すこと等の言語活動が充実しているか。

生活

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、幼児教育での学びや育ちを生かした指導をしているか。
- ◇ 児童が活動や体験を通して気付いたことをもとに考え、気付きの質が高まるために、試行錯誤したり伝え合ったりする活動や、言葉で振り返り表現する機会を設定しているか。

国語

- 意味を理解している語句の数を増やしたり、話や文章の中で使いこなせる語句を増やしたりする指導をしているか。
- ◇ 言語活動(文章等を読み、考えたことを記録したり伝え合ったりする活動)を設定し、自分の考えを形成する指導をしているか。

書写

- 姿勢、筆記具の持ち方、筆順等を意識し、文字を正しく整えて丁寧に書く指導をしているか。
- ◇ 生活や学習活動等での文字を書く様々な場面において、目的に応じて使用する筆記具を選び、特徴を生かして書く活動が取り入れられるよう工夫しているか。

社会

- 必要な情報を読み取り、社会的事象の特色や意味等を理解し、文等にまとめる活動を設定しているか。
- ◇ 社会的な見方・考え方を働かせながら、課題について考えたことを根拠をもとに説明したり、立場を明確にして議論したりできるよう工夫しているか。

算数

- 本時で学んだ知識や技能、または問題の解決に至った過程を適用問題等でより確かなものになるよう工夫しているか。
- ◇ 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、問題解決に向かう学習活動を設定しているか。

理科

- 観察・実験を通して基本的な技能を身に付けたり、得られた結果を適切に記録したりする活動を設定しているか。
- ◇ 児童が、理科の見方・考え方を働かせながら問題解決に取り組めるよう工夫しているか。
- ◇ 「問題解決の力」を育成するための言語活動が充実しているか。

音楽

- 音楽活動を通して、児童の思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素(音色、リズム、旋律等)を焦点化して授業を組み立てているか。
- ◇ 児童が音楽に関する用語等を用いて、音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図等を相互に伝え合う活動を取り入れているか。

図画工作

- 児童が自分の感覚や行為を通して形や色等を理解するとともに、自分の思いを生かした創造的な活動を楽しむ過程を通して技能が育成されるよう工夫しているか。
- ◇ 表現や鑑賞の活動において、[共通事項]に示す事項を視点とした言語活動を設定しているか。

家庭

- 衣食住等に関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的な知識・技能を身に付けられるよう指導しているか。
- ◇ 日常生活の中から問題を見い出して、よりよくするための工夫を考え、実践を振り返る過程の中で、考えたことを表現するよう指導しているか。

体育

- どの児童にも運動する楽しさや喜びを味わわせるために単元でおさえるべき運動の行い方を明確に示し、技能を習得できるように学習時間・場を設定しているか。
- ◇ 自己の課題解決に向けて話したり考えたりする場面を単元内にバランスよく設定したり、授業を展開したりしているか。

外国語活動

- 言語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、音声や基本的な表現に慣れ親しむ指導をしているか。
- ◇ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報や自分の考え等を伝え合うことを体験できる言語活動の設定や授業の展開ができていますか。

英語

- 言語活動を通して、音声や文字、表現、文構造、言語の働き等の知識・技能の定着と活用を図る指導をしているか。
- ◇ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、既得の知識や経験と新しい情報を整理し、自分の考え等を伝え合う言語活動の設定や授業の展開ができていますか。

道徳

- ◇ 指導観(価値観・児童観・教材観)および「本時で児童に考えさせたいこと」を明確にもっているか。
- ◇ 繰り返し発問、意図的指名、言語活動・板書の工夫等によって児童の考えを深めようとしているか。

総合的な学習

- 全ての学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等)の育成を重視し、他の教科等との相互の関連を図りながら指導しているか。
- ◇ 収集・蓄積した情報を整理・分析したり、まとめ・表現したりする活動において、「比較する」「分類する」「関係付ける」等の考えるための技法を活用するよう工夫しているか。

特別活動

- 話合いの進め方、合意形成や意思決定の方法等について理解し、実践を通して体得できるように話合い活動等を設定しているか。
- ◇ 学級や学校での生活をよりよくするための話合い活動で、提案理由を踏まえて折り合いを付けながら合意形成を図ることができるよう、司会グループ等に適切に助言しているか。

「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりの指導資料

「読み解く力」の育成に重点をおいた

児童生徒が学びを実感できる授業づくり



中学校・義務教育学校(後期課程)

国語

- 話や文章の中で使いこなせる語句を増やしたり、語感を磨き語彙を豊かにしたりする指導をしているか。
- ◇ 言語活動(文章等を読み、考えたことを記録したり伝え合ったりする活動)を設定し、自分の考えを形成する指導をしているか。

保健体育

- どの生徒も、運動する楽しさや喜びを味わえるよう工夫しているか。
- 単元の特性を十分味わえるような基礎となる技能の獲得を確実に指導しているか。
- ◇ 運動時間の確保に留意しながら、話合いやICTの活用により、自他の課題解決のための場面を設定しているか。

書写

- 漢字の楷書およびそれに調和した仮名について、正しく整えて速く書くことができるよう指導をしているか。
- ◇ 身の回りの多様な表現を通して、目的や必要に応じ楷書か行書を選び、効果的に文字を書く活動が取り入れられるよう工夫しているか。

技術

- 問題解決の過程に、科学的な知識を踏まえた設計・計画、身体的な技能等を用いた製作・制作・育成といった活動を設定しているか。
- ◇ 生活や社会における課題を解決するために言葉や図表、概念等を用いて考えたり、説明したりする等の学習活動が充実しているか。

社会

- 社会的事象の特色および相互の関連を理解し、資料を効果的に活用し、必要な情報をまとめる活動を設定しているか。
- ◇ 社会的な見方・考え方を働かせながら、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、議論したりできるよう工夫しているか。

家庭

- 衣食住等に関する実践的・体験的な活動を通して、生活の自立に必要な基礎的な知識・技能を身に付けられるよう指導しているか。
- ◇ 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして、生活を工夫し創造するために考え、実践を振り返る過程の中で、考察したことを表現するよう指導しているか。

数学

- 本時で学んだ知識や技能、または問題の解決に至った過程を適用問題等でより確かなものになるよう工夫しているか。
- ◇ 数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して、課題を「数学の世界」として正しく解釈し、解決に向かう学習活動になるよう工夫しているか。

英語

- 言語活動を通して、音声や語彙、表現、文法、言語の働き等の知識・技能の定着と活用を図る指導をしているか。
- ◇ Input-Intake-Outputの授業展開において、「4技能を総合的に育成する言語活動」で知識や情報をIntakeすることを通してOutputする力を高める授業づくりができていますか。

理科

- 観察・実験を通して技能の定着を図るとともに、科学的な用語や概念を活用した表現する活動を設定しているか。
- ◇ 理科の見方・考え方を働かせながら、科学的に探究する学習活動(予想や仮説を設定し、観察や実験を計画する等)に取り組めるよう工夫しているか。

道徳

- ◇ 指導観(価値観・生徒観・教材観)および「本時で生徒に考えさせたいこと」を明確にもっているか。
- ◇ 繰り返し発問、意図的指名、言語活動・板書の工夫等によって生徒の考えを深めようとしているか。

音楽

- 音楽活動を通して、生徒の思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素(音色、リズム、旋律等)を焦点化して授業を組み立てているか。
- ◇ 生徒が音楽に関する用語等を用いて、音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図等を相互に伝え合う活動を取り入れているか。

総合的な学習

- 全ての学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等)の育成を重視し、他の教科等との相互の関連を図りながら指導しているか。
- ◇ 収集・蓄積した情報を整理・分析したり、まとめ・表現したりする活動において、「比較する」「分類する」「関係付ける」等の考えるための技法を活用するよう工夫しているか。

美術

- [共通事項]の各指導事項を、表現や鑑賞の学習の中に適切に位置付けて実感を伴いながら理解できるようにするとともに、生徒が自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料等を選択し創意工夫して表現できるようにしているか。
- ◇ 表現や鑑賞の活動において、自己との対話を深めることや、[共通事項]に示す事項を視点とした言語活動を設定しているか。

特別活動

- 話合いの進め方、合意形成や意思決定の方法等について理解し、実践を通して体得できるよう話合い活動等を設定しているか。
- ◇ 学級や生徒会活動における話合いでは、提案理由や活動テーマ設定の理由(なぜ話し合うのか)を踏まえ、合意形成を図ることができるよう、適切に助言しているか。

◇「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる

「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりのポイント

- 単元(題材)や授業で付けたい力(各教科等で育成を目指す資質・能力)を明確にしましょう。
- 「読み解く力」を高め、発揮している児童生徒の姿を具体的に想定し、単元や授業を構想しましょう。
- 児童生徒が、学習活動に目的意識をもって取り組み、目的に応じて情報を比較・分析・整理したり、他者とのやりとりから知識を再構築したりする具体的な学習場面を設定しましょう。
- 1時間の授業で、「読み解く力」のどのプロセスに重点をおくのかを意識し、児童生徒の思考に沿って展開を組み立てましょう。
- ☆ 児童生徒が見通しをもって粘り強く取り組むことができるよう、「めあて」を設定し児童生徒と共有しましょう。
- ☆ 児童生徒が学びの成果を実感し、学んだことや意欲、問題意識等が、家庭学習や次の授業につながられるよう、授業の時間内に、しっかりと「まとめ」や「振り返り」の時間を確保して取り組みましょう。

「まとめ」：本時の課題に対する答えや結論を確かめること。

「振り返り」：学びの過程を思い出し、自分自身の学びの成果や変容を自覚すること(何ができる・わかるようになったのか、疑問点は何かなど)。

※「めあて」に対しての「まとめ」や「振り返り」となるよう指導しましょう。